



りんご生産情報（5月号）

令和3年5月18日
弘前西地区営農係

1、凍霜害について

4月中旬より定期的に低温に遭遇しており、花蕾内の褐変を確認しておりました。開花時期も中心果の欠落やつるの短いもの、めしべやおしべの褐変が確認されております。摘果作業は、実立ち（ガク立ち）を確認してから行いましょう。被害の強い園地では、側果も成らせ、生産量を確保しましょう。なお、過着果は樹に負担をかけるため適正着果に努めましょう。

2、生態について

当初の生態は平年より約10日早く進んでおりましたが、4月下旬の低温により、ふじの開花日で5月4日頃と平年より5日早くになりました。当初ふじの開花は4月30日予想で、生態は4日程度遅れたこととなります。

ふじの生態	開花日	満開日	落花日
中崎（平場）	5/4	5/7	5/10
住吉（中間）	5/5	5/8	5/11
弥生（山手）	5/6	5/10	5/15
農協平年	5/4	5/8	(5/11)

3、摘果作業

摘果作業は、早生種と黄色品種から始めましょう。また、果実形質の判別ができ次第（5月下旬）、仕上げ摘果へと切り替えましょう。摘果剤の使用は、本年は降霜の影響から十分に効果が発揮されない場合があります。しかし、栽培面積が多いふじや摘果作業に期間が掛かる方は、積極的にふじへ摘果剤の散布を行いましょう。効果が発現するのは散布7日後頃です。

散布時期	使用薬剤・倍数	10a当り散布量	散布上の注意
満開後2週間頃 （ふじ横径10mm前後）	マイクロデナポン 1,200倍 （展着剤加用）	350ℓ以上	落果しやすい品種：つがる、ジョナゴールド、世界一、千雪、ぐんま名月

4、薬剤散布

4月下旬以降の連続した降雨予報により、2回目の散布以降に基準散布の前倒しや特別散布の対応がありました。

管内では散布日や散布薬剤にばらつきが出ております。基本の「散布間隔は10日以内で降雨前散布」を徹底し、今後は特別散布などで散布を調整しましょう。また、リンゴハダニの発生が確認されております。昨年発生が見られた園地では予察を行いましょう。

○黒星病子のう孢子飛散状況

4月に入ってから降雨時に子のう孢子の飛散が確認されております。例年より飛散量は少なく経過しておりますが、油断せずに防除を行いましょう。

散布時期 反当散布量	対象 病害虫	薬剤名 及び混合順序	倍 数	1000ℓ 当り薬量	防除上の注意
5回目 落花10日後（5/19頃） 450ℓ/10a	斑点落葉病・黒星病 うどんこ病・黒点病 すす斑・すす点病 クワコカイガラムシ	ユニックス顆粒水和剤 ジマンダイセン水和剤	2,000倍 600倍	500g×1袋 1.67kg×1袋	<ul style="list-style-type: none"> ・黒星病の重点防除時期となります。 ・カイガラムシの発生が多いところでは、落花10日～20日頃にアプロード（F）1,000倍で胴木洗いを行いましょう。 ・散布が早まっているため、殺菌剤の特別散布を行いましょう。 ・ナミハダニの発生予察はこまめに行いましょう。
特別散布（5/27頃） 450ℓ/10a	斑点落葉病・黒星病 うどんこ病・黒点病 すす斑・すす点病 クワコカイガラムシ	チオノックフロアブル スプラサイド水和剤 ネオミクス	500倍 1,500倍 250倍	2ℓ×1袋 667g×1袋 4kg×1袋	
6回目 落花20日後（6/4頃） 450ℓ/10a	斑点落葉病・黒星病 うどんこ病・黒点病 すす斑・すす点病 キンモンハダニ	デランフロアブル エルサン水和剤 ネオミクス	1,500倍 1,000倍 250倍	333ml×2本 1kg×1袋 4kg×1袋	
7回目 落花30日後（6/14頃） 500ℓ/10a	斑点落葉病・黒星病 炭そ病・褐斑病 すす斑・すす点病 モシクイガ	ラビライト水和剤 サイアノックス水和剤 ネオミクス	500倍 1,000倍 250倍	1kg×2袋 500g×2袋 4kg×1袋	
8回目 落花40日後（6/24頃） 500ℓ/10a	斑点落葉病・黒星病 炭そ病・褐斑病 すす斑・すす点病 モシクイガ	オキシンドー水和剤 モスピラン顆粒水溶剤 カルマツチ	1,200倍 4,000倍 770倍	835g×1袋 250g×1袋 1.3kg×1袋	

5、袋 かけ 作 業

袋かけは薬剤散布後5日以内に行い、間隔が空いた場合は、殺菌剤で実洗いを行いましょう。なお、つる割れの軽減が期待できますので、作業は7月10日までを目安に進めましょう。また、本年は凍霜害の影響でサビ果や変形果などが多くなる予想です。有袋りんごにすることで高単価清算を目指しましょう。